かながわと世界をつなぐ

KIF NEWS

2013.1
No. 31
（公財）かながわ国際交流財団
Kanagawa International Foundation

ケイアイエフ　ニュース

特集　介護現場と『外国人』
― 地域で活躍する外国人スタッフ ―

今号でご紹介した事業より：
左上から　介護の仕事をめざす人のためのワークショップ／外国につながる子どもたちのための放課後宿題教室／青少年国際セミナー／湘南国際村アカデミア／国連大学グローバルセミナー

本格的な少子高齢社会を迎える日本。人手不足が叫ばれる介護現場で活躍している外国人住民の方たちがいます。

財団では、かながわ民際協力基金NGO等協働事業として、「外国籍介護従事者に対する職場定着支援検討事業」を実施し、その一環として外国人の雇用状況調査及び外国人介護従事者の方へのインタビュー調査を行いました。

今回の特集では、上記事業による調査結果の概要と、ご協力をいただいた横浜市福祉事業経営者会の方々へのインタビューを交えながら、かながわで活躍する外国人の方々の現状の一端をお伝えします。

●外国人が活躍できる現場に～甘粕弘志さん、福山満子さんインタビュー…… 2
かながわ民際協力基金NGO等協働事業「外国籍介護従事者に対する職場定着支援検討事業」から
・「介護現場における外国人の就業の現状等に関する調査」を実施　～報告書を発行しました～…… 4
・「介護の仕事」ハンドブックをご利用ください　～４言語で発行～…… 4

KIF SPECIAL INFORMATION

世界の入口に立とう！高校生世代向けの国際人材育成事業…… 5

KIF INFORMATION & REPORT

かながわ国際交流財団の事業から…… 6
国際学生会館だより　学校訪問事業第２弾！「ここがヘンだよ日本人 in 住吉高校」…… 7
県内ＮＥＷＳ ―県内の多文化共生に関係する情報をお知らせします―…… 7

KIF INFORMATION

かながわ国際交流財団へのご寄付のお願い・賛助会員募集のご案内…… 8

特集：介護現場と『外国人』ー地域で活躍

「外国人」が活躍できる現場に　～甘粕弘志さん、福山満子さんインタビュー～

甘粕弘志さん、福山満子さん

外国人の定住化が進む中、介護福祉の現場に定住資格を持つ外国人の方々（※）が就労することが増えてきました。（※日本国籍を取得された外国出身の方を含む）

少子高齢化が進む日本社会で、介護人材の不足は深刻化しており、また介護が必要な外国人高齢者が増加していく中で、その文化的な背景や介護ニーズを理解している外国人介護者の活躍の場は、今後更に増えていくと考えられます。

しかしその就労には様々な課題が指摘されていることから、当財団では、かながわ民際協力基金ＮＧＯ等協働事業として、「外国籍介護従事者に対する職場定着支援検討事業」を実施しました（詳細はP4参照）。

今回は、この事業の実施にあたりご協力いただいた、公益社団法人横浜市福祉事業経営者会（以下、「経営者会」と表記）事務局長の甘粕弘志さんと、コーディネーターの福山満子さんにお話を伺いました。

特に2009年のリーマン・ショック後、製造業を中心に多くの外国人の方が仕事を失い、介護の仕事が注目されるようになりました。福祉分野の専門団体である経営者会では、研修はもちろんですが、その後の就職支援及び就職後職場への定着に対する支援で成果を得て注目されています。

経営者会が外国人住民の方の介護就労支援に取り組んだきっかけ

甘粕：　介護分野の人材不足は長く続いていますが、グローバル化の中で外国人の方にも活躍していただきたいという気持ちはずっとありました。検討を始めたのは2008年頃ですが、当時は今よりも景気がよく、永住者・定住者の方よりむしろ、留学生を介護を担う人材として注目していました。「国際化」「多文化共生」と言いながら、せっかく日本で学んだ留学生が日本で就職できずに帰国する例が多いということで、構造改革特区として、留学生等が卒業後横浜市の事業所で介護職についた場合に、在留資格が認められるようにできないだろうか、と発想したのです。

しかし、当時既に日本国内で介護関連の資格取得者は40万人を超えており、国内の人材の就業を促進する方が先ではないか、という結論になりました。

フィリピン、インドネシアとのEPA（経済連携協定）によって来日した看護師・介護福祉士候補者の方の受入にも取り組み、介護福祉士試験の合格者も出ましたが、育成のための費用負担や人数が少ないという課題もありました。

いちょう団地でヘルパー養成講座を開始

甘粕：　一方で同じ時期に、製造業の工場などで働いていた中国帰国者、南米日系人の方など永住者、定住者などの在留資格を持つ方たちが不景気で失業されるという問題が起こっていました。

私たちが外国人住民の方を対象に事業を行ったのは、2009年の１月に神奈川県の委託事業として実施したホームヘルパー２級養成講座が最初でした。その時は初めての試みでもあり、地域や国籍を絞って、外国人の方が多く生活する県営のいちょう団地（大和市、横浜市泉区）に住んでいるベトナムの方を対象にしました。

福山：　最初は実績がなかったこともあって、イメージが伝わらなくて受講者がなかなか集まらず、募集には本当に苦労しました。施設での実習も行いましたが、受け入れる施設の方も最初は積極的とは言えませんでした。

介護の仕事でステップアップ

甘粕：　参加者５名でようやく研修を開始したのですが、幸い参加した方はとても意欲的で、研修終了後は全員就職が決まり、今ではパートから正職員になってフロア主任を任されている人もいます。

福山：　製造業の工場でのラインの仕事や、お弁当工場でごはんを詰めたり、野菜をカットしたりする仕事をしていた人も多かったのですが、そうした仕事はステップアップが難しい。それに比べて介護職は専門性を磨くことができますし、人と接することで日本語の力もつき、何より私は介護職に向いている外国人の方は多いと思っていましたから、何とか実績を作れたらと考えていたんです。

甘粕：　翌2009年度から地域や国籍を問わずに募集するようになり、今、研修を終了した多くの方が介護の現場で活躍しています。修了生の評判がよく、受け入れる事業所側の意

横浜市福祉事業経営者会が実施した「介護分野における外国籍県民の就労支援事業」概要

講義風景

●開始：2008 年度
●実施講座（場所）
・外国籍県民ホームヘルパー２級養成講座（横浜市）
・外国籍県民向け福祉施設就職相談会・面接会（横浜市・厚木市等）
●参加者数：　のべ 227 名
　うち就職者数：84 名　（2009 年 8 月～ 2012 年 3 月）
●参加者の国籍：28 か国（地域）（永住者、定住者、日本人の配偶者等）
●就職先：特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、地域ケアプラザ、グループホーム等
（お問い合せ：　公益社団法人　横浜市福祉事業経営者会　tel 045-840-4649
URL:http://www.y-hukushijigyo.or.jp/job.html）
※ ご希望の方は、連絡すると今後の講座のご案内などを送っていただくことができます。

する外国人スタッフ―

識も変わってきています。継続してきたことで、就職する方たちにも、事業所側にも喜ばれる結果につながっていると思います。

優れた人材が活躍し、そうした方は待遇などの面でも報われている現状もあります。

多くの事業所で外国人の方が人材として評価されている

甘粕： 明るさ、優しさ、高齢者への敬意があり、利用者に喜ばれているケースが多いです。高齢の方と一緒に生活した経験が豊かであることも大きいですね。日本の、特に若い介護スタッフはそのような経験が少なく、どう接したらよいか戸惑うことも多いようです。介護という仕事を通して日本の社会に貢献したい、と話す人も多くいます。

今年度（2012年度）初めて外国人の方と日本人の方の両方を対象とした養成講座を行いましたが、日本人の方々も大変刺激を受けているようです。

支援を通じて力を発揮し始めた外国人スタッフ

福山： 財団が行った調査報告書でも指摘されていたように、外国人の方が介護現場で働くには、日本語（特に記録作成）や利用者・上司や同僚との関係など、課題はもちろんあります（※詳細はP４参照）。

ただ、こうした課題は支援があれば乗り越えられることも多いと思います。一旦慣れて仕事が一通りこなせるようになれば、自力で解決できることも増え、技術や専門知識を蓄積していけます。しかし、介護現場は人の入れ替わりも激しく、新入職員の見本になったり支えたりできる中堅職員の層が薄い所も多いので、外国人スタッフ特有の課題まで手が回らないようです。

私たちは、研修を終了して就職した方たちに対し、職場訪問や電話相談などの定着支援を行っています。研修の中でも、参加者同士が修了後も助け合える関係づくりを重視しています。皆自分自身の力で解決しようと本当に頑張っていて、具体的な問題の相談は少ないのですが、頼れる場所がある、という安心感はとても大切だと思います。

将来に向けて――世界で生きるパートナーとして

甘粕： 神奈川県内には、施設系、在宅系の介護事業所は5,000事業所以上ある中で、外国人の方が働いていたり、働いたことのある事業所は４分の１程度だと思われます。外国人の方がもっと働ける環境をつくることによって介護の現場がいい意味で変わっていくことも期待できると思います。

この就労支援事業は運営資金の確保が課題ですが、できる限り継続・発展させて、外国人の方が活躍する場を増やしていけたらと思います。

もっと長い目で見れば、これから日本で暮らす人たちは益々多様化していきます。人口減、高齢社会への対応は待ったなしです。外国人の方たちは出身国とのつながりもあり、それらの国では今後徐々に日本と同じような状況になっていきます。増え続ける介護の需要をチャンスととらえ、目標を持って働いている外国人の方もいます。介護の分野に必要な知識やノウハウを身につけて、出身国で起業したっていい。今こうして築かれつつある絆をもとにして、将来、外国人スタッフが出身国につくる施設と神奈川の施設が連携し、交流できたらすばらしいと思います。

ともに生きる高齢社会―外国人住民が安心して年を重ねられるように

福山： 今後の課題として高齢になった外国人住民の方がもっと介護サービスを使えるようになれば…と思います。私の父は中国出身ですが、父を見ていても、デイサービスでさえ参加する勇気がなかなか出ないようです。

また、父もそうなのですが、自分の身体が動くうちは老後について「出身国に帰るから」と考えている人が多いと思うのですが、いざ高齢になると、子どもも日本に生活基盤があるので日本を離れられず、年老いて一人で帰ることもできません。出身国には既に生活基盤がなく、親戚・知人もいなくなっています。父も最近は「帰る」と言わなくなってしまいました。年金や介護保険など具体的な準備が十分でない方も多いようなので、これからもっと考えていかなければならない問題だと思いますね。

■今日はどうもありがとうございました。

外国人介護士の方・外国人の介護をする方のための・・・　INFORMATION

＜ホームページ／書籍＞

●「日本語でケアナビ」
（言語：日本語・英語/日本語・インドネシア語）
http://nihongodecarenavi.jp

看護・介護の分野で働く人たちのための、辞書機能を中心にした日本語教育支援ツール。スマートフォン版も公開。

介護・看護の基本的用語だけでなく、「清潔保持」「身体介助」など場面ごとに利用者への声かけや上司・同僚との会話などをイラストと共に紹介。

制作・運営：国際交流基金関西国際センター

書籍版：「外国人のための看護・介護用語集　日本語でケアナビ　英語版」
出　版：凡人社
価　格：2,100円

●「介護のための日本語テキスト」
（日本語・ポルトガル語・スペイン語・英語　対訳単語集込み/別冊中国語対訳単語集つき）

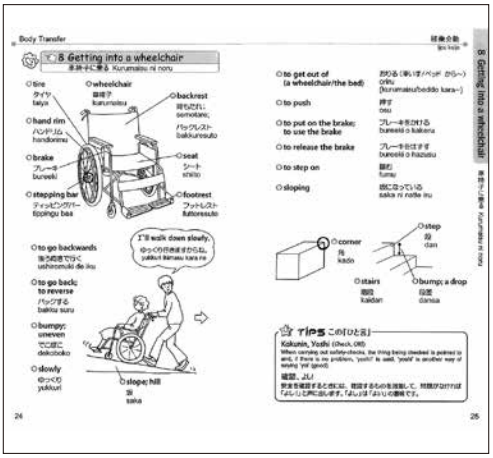
介護経験のある日本語講師や看護師、介護士が執筆。受入準備、日本語教育などの具体的な内容を掲載。

作成・入手先：（公財）浜松国際交流協会
（電話：053-458-2170）
価　格：1,000円（送料込・別冊つき）

●「介護スタッフのための声かけ表現集」
（言語：日本語・英語）

日常生活の介助の基本である「移動・食事・排泄・衣類着脱・身体清潔」を取り上げ、場面ごとの介助の手順に沿った声かけ表現を日本語と英語で解説。音声のCD-ROMつき。

出　版：JALアカデミー
価　格：1,995円



「日本語でケアナビ」（書籍版／凡人社）より。
このページは「車椅子に乗る」。部品の名称、「段差」などの関連用語、「ゆっくり行きますね」という声かけなど、介護現場で使う具体的な表現などが掲載されている。介護・看護にかかわる様々な場面ごとに紹介。

かながわ民際協力基金NGO等協働事業　「外国籍介護従事者に対する職場定着支援検討事業」から

「介護現場における外国人の就業の現状等に関する調査」を実施　～報告書を発行しました～

財団は、2011年12月から半年間にわたり、学校法人国際学園と連携・協働して、神奈川県内の高齢者保健福祉施設を対象にした外国人の雇用状況調査、及び県内在住の外国人介護従事者へのインタビュー調査を行いました。調査は、県内における外国人介護従事者の実態や課題を把握することで雇用者・被雇用者の相互理解を促し、介護職を目指す外国人住民の方々の職場定着を図ることを目的に実施し、結果を報告書にまとめました。

調査結果の概要は次のとおりです。報告書は無料で配布しています（郵送料ご負担）。財団ホームページからダウンロードもできますので、是非お読みください！

●外国人雇用状況調査（アンケート調査）概要

調査対象	県内の特別養護老人ホーム及び老人保健施設　３４３件
回答	１２６件（回収率　３６．７％）
調査方法	FAX 送付によるアンケート形式
調査時期	2011 年１２月
調査項目と回答の主な内容	**【外国人職員の採用状況】** 現在または過去に外国人職員を雇用している施設は 79 件（63%） 現在雇用している外国人職員の国籍等：フィリピン（28 人）、中国（20 人）、韓国・朝鮮（18 人）、ベトナム、インドネシア、ペルー、ブラジル等 **【外国人職員の採用後の配慮】** 特別な配慮なし（45 件）、研修実施（18 件）、相談役配置（14 件）、配置の工夫（13 件）、外国人職員の文化・生活習慣等の勉強（10 件）など **【採用して良かったこと】**「気持ちが優しい、明朗である」（52 件）、「仕事に対して意欲的」（38 件）。外国人入所者への援助の有効性、お年寄りを大切にする姿勢、介護職への適性が日本人職員への手本になっているという声も複数あった。 **【課題】** 日本語能力の不足により「業務を期待通り遂行できない」（23 件）、「入所者のニーズがくみ取れない」（20 件）など **【今後の外国人職員の採用】** 今後外国人職員を雇用するつもりがある施設は 63 件（50%） **【職場定着に必要なこと】**「日本語での読み書き能力の向上」（49 件）、「仕事に対する姿勢、心構え」（46 件）など **【外国人利用者（被介護者）の状況】** 現在または過去に外国人利用者の入所がある施設は 34 件（27%） 利用者の国籍等：韓国・朝鮮（15 人）、中国（13 人）、米国（5 人）、フィリピン（2 人）、ペルー、ベトナムなど

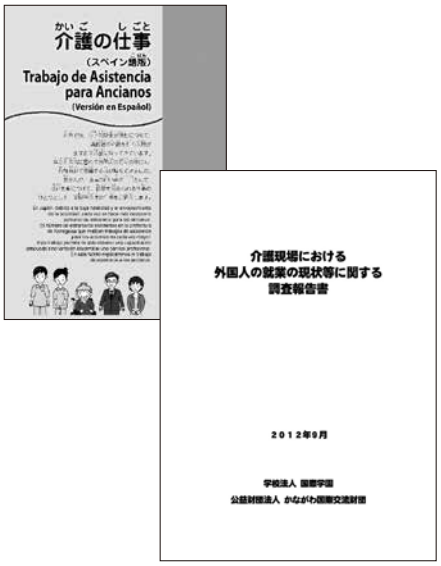
●外国人介護従事者調査（インタビュー調査）概要

調査対象	県内在住の外国出身ホームヘルパー２級取得者及び介護職経験者１０名、その他介護業務の関係者３名
調査方法	日本語による対面インタビュー（１名のみ通訳つき）
調査時期	2012 年１月～５月
調査項目と回答の主な内容	**【入職経緯、動機】** 理由は「お年寄りが好きだから」。不況が原因で前職を失った人が多い。 **【介護の仕事をして良かったこと】**「感謝してもらえる」（回答者全員が挙げた）「コミュニケーションが楽しい」「困っている人を助けられる」 **【介護の仕事への不安・悩み】**「同僚との人間関係」が最も多い。ほかに「重い認知症の利用者のケア」「賃金が安い」など。 **【日本語について】**「介護記録の作成」が大きな課題。ただし、介護現場が日本語上達の場にもなっている。 **【自己研鑽、キャリアアップ】** 現職でこれまでの介護職の勤務経験を活用している人が多い。研修の実施は職場による。 **【外国人が介護職を続けていくために必要なこと】** 「入職時に同僚や利用者とうまくやっていくための環境づくりをしてほしい」「相談に乗ってくれる人の存在が大事」「介護の『会話集』『用語集』『フリガナつきの作業マニュアル』があるとよい」 **【外国人住民への介護について】** 「日本の介護制度を外国人住民に分かりやすく説明する必要がある」「外国人高齢者にとって、高齢者施設のハードルは高い」

報告書　入手方法

Ａ４サイズ封筒に「介護報告書希望」と明記し、送付先のお名前と住所を記入し、240円分の切手を貼って財団本部までお送りください。（Ａ４版、46ページ）
財団ホームページの次のページからも閲覧、ダウンロードができます。

http://www.k-i-a.or.jp/shuppan/report.html



『介護の仕事』ハンドブックをご利用ください
～英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語版を作成しました～

上記の調査の結果をもとに、介護の仕事に関心のある外国人住民の方むけに、ハンドブックを作成しました。「高齢者介護の仕事内容」「職場でのマナー」「外国人の介護スタッフからのアドバイス」「相談窓口」「多言語の教材情報」などを掲載しています。

財団ホームページの次のページから閲覧、ダウンロードができます。すべて日本語併記です。

中国語：http://www.k-i-a.or.jp/tabunka/pdf/kaigonoshigoto_ch.pdf
スペイン語： http://www.k-i-a.or.jp/tabunka/pdf/kaigonoshigoto_es.pdf
ポルトガル語： http://www.k-i-a.or.jp/tabunka/pdf/kaigonoshigoto_pt.pdf
英語： http://www.k-i-a.or.jp/tabunka/pdf/kaigonoshigoto_en.pdf

KIF SPECIAL INFORMATION

世界の入口に立とう！～高校生世代向けの国際人材育成事業～

グローバル化の流れの中で、世界では環境破壊、貧困、格差、紛争などの課題が深刻化し、また国内においては外国人住民の定住化が急速に進み、持続可能な多文化共生の地域社会づくりなど新たな課題への対応が求められています。当財団では、このような課題の解決に向けて、高校生世代を対象に、身近なところから行動する国際性豊かな人材を育成する事業を実施しています。そのうち２事業をご紹介します。

●先生方必見！高校に講師を派遣します（派遣授業）

県内の高校を対象とした「高校国際教育支援事業（派遣授業）」です。高校における国際教育を支援する目的で、講演会やワークショップ等の実施について学校からの相談に応じ、財団に蓄積されたNGO、研究機関、外国人住民等とのネットワークやセミナー実施のノウハウを駆使しながら、プログラム企画のサポートや企画内容に即した講師を派遣します。テーマは「海外事情を知る」「異文化理解」など、学年・全校生徒向けの講演会から少人数でのワークショップまで、様々なリクエストに応じます。

１校につき１件実施し、年間20件募集します。講師への謝礼・交通費は、原則として財団が負担します。今年度分（2012年４月～2013年３月）は好評につき、全ての募集が終了しましたが、来年度以降も募集を行う予定です。

●仲間とともに世界へ一歩踏み出す～青少年国際セミナー（K-PIT)～

県内の高校生世代を対象にした参加者募集型の「青少年国際セミナー（K-PIT）」です。K-PITはKanagawa Program of International Trainingの略称で、「世界の入口に立とう」を共通テーマに、世界の現状や課題に対する理解を深めるとともに、国際社会で生きるために必要な豊かなコミュニケーション能力と多様なものの見方を育むことを目的としています。

単に講義を聞くだけでなく、ワークショップ（参加型学習）やグループ・ディスカッション、留学生との交流会など、参加者が主体的に学び合うための多彩なプログラムで構成されており、知識を覚えることよりも、自分で考える力を養うことに重点を置いています。また、高校を卒業したセミナーOBやOGがアドバイザーとして参加しますので、進路についての相談などもできます。

写真　左：派遣授業、右：K-PIT 実施風景

現在は年に２回、日帰りコース（入門編）と２泊３日コース（発展編）を実施しています。リピーターの参加者も多く、国際理解に興味を持つ同年代の仲間との出会いも大きな刺激となっています。

次回は2013年３月26日（火）～28日（木）に東海大学湘南キャンパス（平塚市）で実施する予定です。

●世界に視野を広げるきっかけづくり

体系的な学校教育とは異なり、単発のプログラムである派遣授業やK-PITはほんのきっかけづくりに過ぎないかもしれません。しかし、まずは「世界の入口」に立ち、広く社会に目を向けることで興味が喚起されることも大切なことと考えます。派遣授業では年間約３千人の生徒がプログラムを受講しますが、それを契機に世界のことに興味を持ちK-PITに参加するという人もいます。また、その時は関心がなくとも、将来何かをきっかけに思い出し、行動する際の判断材料になることもあるかもしれません。若い力の無限の可能性に期待し、それに応えられるようなプログラムを提供していきます。

財団の高校生世代向け国際人材育成事業のリーフレットができました！

派遣授業やK-PITのプログラム例などが掲載されています。

●入手方法

＜ホームページから＞

財団HPの「湘南国際村学術研究センター」のページからダウンロードできます。

URL：http://www.k-i-a.or.jp/shonan/foryouth/leaflet.pdf

＜郵送＞

ご希望の方には郵送させていただきますので、下記問い合わせ先にご連絡ください。

●問合せ

〒240-0198神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39湘南国際村センター内
（公財）かながわ国際交流財団
湘南国際村学術研究センター　電話: 046-855-1822　e-mail: shonan@k-i-a.or.jp

実施例

《派遣授業》

テーマ例）「アフリカの豊かさと貧しさ」勝俣誠（明治学院大学教授）於県立横浜翠嵐高校、「海の向こうの現場から」貫洞欣寛（朝日新聞）於横浜創学館高校、「難民としての私の経験」トルオン・ティ・トゥイ・チャン（外国人相談窓口通訳）於県立横浜立野高校・保土ヶ谷高校、「カカオ農園の子どもたち」木下理仁（かながわ開発教育センター）於県立弥栄高校、「インド文化に触れる」マドゥー・プリヤー（インド舞踊家）於県立麻生高校　等

《K-PIT》

テーマ例）「戦争のみかた、平和のミカタ、わたしの見方」、「異文化間コミュニケーションって何だろう?」、「みんなで語り、あなたが描く、ともに生きる社会」

２泊３日のプログラム例）１日目：ワークショップ、レクチャー、留学生との交流会　２日目：レクチャー、グループ・ディスカッション　３日目：グループ発表、修了証書授与

KIF INFORMATION & REPORT

かながわ国際交流財団の事業から

【1】国連大学グローバル・セミナーを開催しました

2012年9月3日から3泊4日で、湘南国際村センターで国連大学グローバル・セミナー第28回湘南セッション『地球社会は多様な人道危機にどう取り組むか』を開催しました。15の国・地域からの留学生21名を含む90名の大学生・大学院生が参加し、地球規模で起こる自然災害や武力紛争などに対してどのような人道支援が求められているかを、研究者や実務家による講義を通して学び、議論しました。東日本大震災に関する特別セッションでは、現地で支援活動を続けてきた市民団体や自衛隊関係者などが現場での対応や復興支援のあり方について報告。グループごとに夜遅くまで熱心に討論した成果は、ビデオや寸劇などそれぞれに工夫を凝らしたかたちで最終日に発表されました。

【2】湘南国際村アカデミア『森林と共存　パプアニューギニアの森から』を開催します

講　師　ヘンリー・スケーブンス（（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）自然資源管理グループディレクター）、藤崎泰治（同特任研究員）
日　時　2013年2月3日（日）
14：00～16：00
会　場　IGES第1会議室（湘南国際村）
定　員　80名（応募多数の場合抽選）
参加費　無料
申込み　メールかFAXで、氏名・住所・連絡先（電話・FAX・メール）を明記の上お申し込みください。
申込締切：2013年1月21日（月）

申込み・問合せ：
湘南国際村学術研究センター
E-mail：academia@kif.ac
FAX：046-858-1210
電話：046-855-1822

【3】研修講師を派遣しています

財団では、県内の自治体職員や教育委員会、学校、保育園関係者など、業務で外国人住民と接する方々向けの研修に講師派遣を行っています。

テーマは「多文化共生社会について考える」「国際教室における日本語指導」など様々ですが、異なる言語や文化背景をもつ外国人住民の状況を理解し、違いに配慮した様々な工夫やより良い相談対応、サービス提供につながる協力をさせていただいています。

講師は研究者やＮＧＯ関係者、外国人コミュニティのリーダーなど多様な方々に依頼していますが、研修を通じて異なる分野の機関が連携した支援のあり方について考える機会にもしたいと考えています。

今年度は県内自治体（神奈川県、横浜市神奈川区、鶴見区、平塚市、秦野市、綾瀬市）の教育委員会、学校、福祉関連部署等に派遣を行いました。

研修の企画協力や講師紹介なども行っていますので、お気軽にお問い合わせください（問合せ先は下記をご覧ください）。

【4】『ハーフが美人なんて妄想ですから！』著者サンドラ・ヘフェリンさんの講演会を開催します

二つの国の間で揺れながら自分の居場所探しに苦労する「ハーフ」のこと、日本社会で「ハーフ」が巻き込まれるエピソードなどをおもしろく、時に真面目に語った『ハーフが美人なんて妄想ですから！』（2012年）の著者であるサンドラ・ヘフェリンさんが「共生」について語ります。

日　時　2013年3月9日（土）
13:30～15:00　開場13:00
会　場　かながわ県民センター
２階ホール
参加費　無料（事前申込み不要）

【3】研修講師派遣【4】講演会についての問合せ
多文化共生・協働推進課
E-mail：tabunka@k-i-a.or.jp
電話：045-620-0011

外国につながる子どもたちのための放課後宿題教室を開催しています

財団では、平塚市域をモデル地域として実施している「外国人住民総合支援モデル事業」の取組みの一つとして、平塚市立横内小学校と平塚市国際交流協会日本語部会と連携・協力して、外国人住民の方々が多く居住する横内地区の公民館を会場に、放課後宿題教室を開催しています。

平塚の横内地区は、県営団地を中心にベトナム、ラオス、カンボジア等多くの外国人住民が暮らしています。主に小学校に通学する外国につながる子どもたちを対象にした夏休み・放課後宿題教室の様子をレポートします。

始まりは、昨年の夏休みの終わり頃に３日間開催した、主に小学生対象の宿題教室でした。夏休みの宿題を終わらせるため、毎日20人近くの子どもが集まりました。9月からは週１回、放課後に宿題教室を開催し、今では毎週30人ほどの子どもたちが通ってきています。

子どもたちは先生から渡されたかけ算や割り算のプリントや、来日間もない子どもはひらがなの書き方練習のプリントなどを持ってきます。

これらの宿題をボランティアの方々に丁寧にみていただいています。学習時間は1時間程度ですが、集中することが難しい子どもの場合はお話も交えています。ボランティアは、教員をされていた方、日本語指導経験のある方、外国にルーツを持つ高校生、近隣の大学生等様々です。日本で生まれて日本語が達者、母語も話せるけれど学習面でつまずきがある子、来日したばかりで日本語のサポートは必要だけれど算数の問題はすらすら解ける子など、レベルやサポート内容も様々です。日本語理解が不十分で、仕事で帰宅も遅い保護者が多く、子どもたちは勉強を見てもらえず、夕食を一人で食べることになります。このような子どもたちにとって、放課後宿題教室は宿題をするだけでなく、安心して誰かといられる居場所のひとつにもなっているようです。

元気に勉強しています！

国際学生会館だより　学校訪問事業第２弾！「ここがヘンだよ日本人 in 住吉高校」

当財団では県内２か所（横浜市旭区･白根、相模原市･淵野辺）で私費留学生を対象として、快適な勉学環境の提供と地域住民の方々との各種交流事業を実施する国際学生会館を運営しています。このコーナーでは、同会館の様子やお知らせをなどをご紹介します。

昨年11月６日（火）の午後、そぼ降る雨の中を中国、韓国、ミャンマーの留学生３名が川崎市内の県立住吉高校を訪れ、29名の元気な高校生を相手に講師を務め交流しました。住吉高校では毎年１年生を対象に“国際理解体験講座”（テーマ別に16講座）を設けており、この講座の一つとして、今回の「ここがヘンだよ日本人in住吉高校」を開催しました。

担当教諭から紹介があった後、３名の留学生から日本における日常の習慣、行動などで驚いたことを語ってもらいました。中国の周梁さんからは「“ちょっと”という日本語は万能の呪文なのでしょうか？」「中国では男女のデート時の割勘は考えられない」。韓国の宋ダヘさんは、「日本人はとにかくよく謝る」。そしてミャンマーのピョーピョーニェンさんは、「日本の物価、特に食品の値段は、ミャンマーの100倍（時には1,000倍）」「日本人が行列すること」とそれぞれが驚いたことを発表しました。

留学生の発表の後、６グループに分かれた生徒たちが、留学生が驚いたことが何故なのかを考え、グループごとに意見交換し発表しました。日本では、“当たり前”と思っていることが、そうではないことを知り、価値観も様々であることを理解する良い機会になりました。

授業終了後、３名の留学生は口々に「生徒の皆さんが真剣に考えてくれて、良い国際比較ができました」、「また、別の機会でも講師をしてみたい」と感想を述べ、大変満足した様子でした。

財団では今年度、学校訪問事業として、この住吉高校を含め、これまで横浜市、川崎市、相模原市、清川村の合計５校（中学校・高校）に、国際学生会館等の留学生を講師として派遣しています。

（うち４件は神奈川県委託事業として実施しました）

グループワークで留学生が生徒にアドバイス

県内ＮＥＷＳ　―　県内の多文化共生に関係する情報をお知らせします　―

皆さんが住んでいる市町村で、外国人住民の方にどんな情報が提供されているかご存じですか？　今回は、多言語で発行されている定期刊行物をご紹介します。その多くが市民ボランティアなどの協力により発行されています。

公共施設の利用、在留資格や児童手当などの制度の変更、外国人の方の意見を反映するための「外国人市民会議」の情報など、内容も多彩です。

インターネットでの情報提供が多くなってきましたが、コンピュータを利用しない方もおり、紙媒体も貴重な情報源になっています。

●あやせトゥデイ［年３回刊］

（あやせトゥデイ作成委員会）

【最新号内容（2012 年 7 月号）】

在留カードについて / スポーツ施設がオープン / 花火大会開催 など

【言　語】９言語（英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語・ハングル・タイ語・ラオス語・ベトナム語・タガログ語）

【問合せ】綾瀬市市民協働課・自治協働担当
電話 :0467-70-5640

※市役所など公共施設のほか、ショッピングセンター綾瀬タウンヒルズなどでも配布。希望者への郵送も。
http://www.city.ayase.kanagawa.jp/hp/menu000015600/hpg000015542.htm からダウンロード可。

● Voluchitta　ラウンジのひろば　［季刊］

（さがみはら国際交流ラウンジ）

【最新号内容（2012 年 11 月号）】

新しい在留管理制度・住民基本台帳制度スタート／相模原の見どころ／日本の風物詩「やきいも」／フィリピンの「クリスマスの思い出」

【言　語】９言語（英語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語、ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語、カンボジア語　全て日本語併記）

【問合せ】さがみはら国際交流ラウンジ
電話 :042-750-4150

※顔の見える関係の中で、文化の相互理解も重視された内容です。http://www1.odn.ne.jp/sil/Japanese/joho/voluchitta/voluchittaindex.html からダウンロード可。FM さがみ（83.9MHza）の多言語によるラジオ放送にも、ラウンジのスタッフが協力しています。

●情報紙 テラ / ティエラ / ニーハオ / チャオバーン［隔月刊］

（大和市国際化協会）

【最新号内容（2012 年 10 月号）】

外国につながる子どものための日本語教室（プレスクール）開催 / 児童扶養手当について / 大和市多文化共生会議委員募集

【言　語】４言語（英語、スペイン語、中国語、ベトナム語）

【問合せ】大和市国際化協会
電話 :046-260-5126

※大和市内の公共施設などで配布。外国人住民の社会参加につながる内容が多く盛り込まれています。http://www.yamato-kokusai.or.jp/news/news.htm からダウンロード可。

今回ご紹介したものの他にも、川崎市（やさしい日本語を含む７言語）横浜市（同７言語）、と横浜市内各区の国際交流ラウンジ等でも発行しています。

神奈川県内の自治体による多言語情報の提供は年々充実し、生活ガイドや HP の多言語化（自動翻訳含む）も多くの自治体で行われています。ぜひ一度ご覧になってみてください！

「あやせトゥデイ」（ラオス語版）

KIF INFORMATION

かながわ国際交流財団へのご寄付のお願い

当財団では、中期的な重点目標に掲げた『持続可能な多文化共生の地域社会かながわの基盤づくり』の取組みを着実に進めるため、寄付者の皆様に寄付金の使途を次の４つの事業から指定して頂く寄付制度を設けております。

ご厚意を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

① 多文化共生の地域社会かながわづくり
② 県民・NGO等との連携・協働による国際活動の促進
③ 国際性豊かな人材の育成
④ 学術・文化交流を通じた地域からの将来像の提案

振込先：ゆうちょ銀行　００２８０－４－４９８９４
公益財団法人かながわ国際交流財団

通信欄にご希望の事業名または事業の番号（①～④）をご記入ください。

※当財団は、2012年４月１日に公益財団法人へ移行しました。これに伴い、ご寄付には税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、国税庁ホームページをご覧ください。

○タックスアンサーNo.1150　一定の寄付金を支払ったとき（寄付金控除）
http://www.nta.go.jp/taxanswer/shotoku/1150.htm

○タックスアンサー No.5283　特定公益増進法人に対する寄付金
http://www.nta.go.jp/taxanswer/hojin/5283.htm

賛助会員募集のご案内

当財団の活動を支援してくださる賛助会員を募集しています。多文化共生の地域社会かながわづくりなど、幅広い活動をしている当財団をぜひご支援ください。

●会員の皆様へのサービス

・本誌を定期的にお送りします
・当財団の出版物を割引価格でご購入いただけます
・提携しているエスニック・レストランの優待サービス　等
（会員サービス情報提供ＵＲＬ：　http://www.k-i-a.or.jp/member/）

●会　費

①学生会員1,500円以上　②一般会員3,000円以上　③団体会員10,000円以上
（会員の有効期限は１年間です）

●申込み・問合せ

次のホームページから申込むか、財団事務所にお電話ください。
申込みページＵＲＬ：　http://www.k-i-a.or.jp/member/
電話：０４５－６２０－００１１

財団ホームページをご活用ください

当財団の事業内容や、本紙には掲載しきれない様々な催し物・報告書発行などの最新情報のほか、神奈川県内の多文化共生・NGO支援などに関わるご案内を掲載しています。17言語（日本語併記）による「多言語医療問診票」、神奈川県内の「日本語教室マップ」なども、多くの方にご利用いただいています。

湘南国際村学術研究センター、神奈川国際学生会館のページも、事業の詳しい内容や、実績報告、出版物の情報などが満載です。ぜひご覧ください！

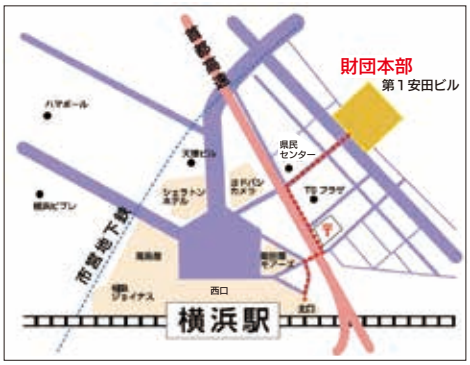
URL: http://www.k-i-a.or.jp

かながわ国際交流財団（略称ＫＩＦ）は…

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いをこえて、いきいきと心豊かに暮らせる社会の実現のため、次の４つを柱として、事業を展開しています。

１　多文化共生の地域社会かながわづくり
２　県民等の国際活動の支援、NGO等との連携・協働の促進
３　地球規模の課題等に対応できる国際性豊かな人材の育成
４　学術・文化交流を通じ、地球規模の課題解決に向けた地域からの将来像の提案

財団本部（多文化共生・NGO協働推進センター）



湘南国際村学術研究センター

広告を掲載しませんか？

本紙は、国際協力・国際交流の活動をしている市民グループをはじめ、図書館、公民館、パスポートセンター、県内の高校、市町村の国際担当部署、教育委員会、区役所、県庁、財団賛助会員の皆様などに配布しています。
発行部数：5,000部
掲載に関する情報は次のホームページか、お電話で。
http://www.k-i-a.or.jp/ad/

公益財団法人 かながわ国際交流財団
Kanagawa International Foundation
ニュースレター『KIF NEWS』　2013年1月1日発行　第31号
発　行／公益財団法人かながわ国際交流財団
［財　団　本　部］〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8 第一安田ビル4階　TEL：045-620-0011　FAX：045-620-0025　http://www.k-i-a.or.jp/　E-mail:tabunka@k-i-a.or.jp
［湘南国際村学術研究センター］〒240-0198　三浦郡葉山町上山口1560-39 湘南国際村センター内　TEL：046-855-1820～1822　FAX：046-858-1210
［神奈川国際学生会館・淵野辺］〒252-0233　相模原市中央区鹿沼台1-10-22　TEL：042-768-0211　FAX：042-768-0213
［神奈川国際学生会館・白根］〒241-0005　横浜市旭区白根4-24-3　TEL：045-953-7001　FAX：045-953-7001
印刷・DTP／有限会社　青史堂印刷

＊情報紙に掲載されているイベントへのお申し込みの際にお知らせいただいた個人情報は、イベント受付以外の目的には使用いたしません。